



2022年 新年の御挨拶

橋（岩崎）廣治（当協会会長）



明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、会員、並びにご家族の皆様のご健康とご多幸を心より祈念申し上げます。

日本、パプア・ニューギニアを含め世界中がコロナ、オミクロン株の脅威の下に、新しい年を迎えました。

二年が過ぎても依然として予想も出来なかった困難な国際情勢が続いています。世界の人々との交流が非常に難しくなっており、我が国とパプア・ニューギニアとの関係もその例外ではなく、我が協会の活動にも様々な制約が見られます。

しかし、このような国際情勢においても、昨年は会報誌、メルマガの継続的な発行及びパプア・ニューギニア国軍軍楽隊への援助等が行われました。

またサミュエル・アバル新大使の着任があり、我が国からは渡邊新大使が赴任しています。

依然として猛威を振っているコロナ禍も、世界におけるワクチン接種も広がっており、いよいよ終息の段階に入ったとの見方もあります。

このコロナ禍によって、私たちが学んだことも多々あります。その一つは人との連帯がいかに重要であるかという事です。

私たちは一人では到底生きられませんし、何よりも一人では生きていても楽しいことも半減しています。人と会ったり話すことが重要なことが分かりました。

それと旅と言うのも非常に重要なものです。時にはニューギニアの高地や南太平洋の島々で過ごすことも生きる喜びの一つです。

コロナを軽視するつもりは全くありませんが、コロナが終息の暁には、我が協会は、アバル新大使の歓迎会を含め、TOKTOK 等各種の活動を活発に行い、パプア・ニューギニアとの友好関係の促進に努めて参ります。

本年も引き続きご支援ご協力の程、何卒宜しくお願いいたします。

2022年 パプアニューギニアの行事と祝日のリスト

伊藤 明德（協会 ポートモレスビー支部長）

ポートモレスビーでは、COVID-19 が12月から大きな広がりを見せておらず、お店の入店時の体温チェックも緩やかになって来ています。今年は、日本からの旅行者や学生、お仕事の関係者が多く PNG を訪問することを期待しています。

今年は、5年に一回の全国総選挙が6月に実施されます。国会議員111の議席、地方政府議会331議席、行政区（Wards council）6,375名が選挙により選ばれます。新聞報道では約600万人が投票すると報じられていますが、選挙投票者名簿のアップデートの調査も十分に行われておらず、また、NID（国民身分証明書）の登録も進んでおらず、投票所で投票者の名前が見つからないなどの問題も起きるのではと思います。毎回総選挙は荒れて治安も悪くなります。この期間のPNGへの訪問は避けた方が賢明です。それでも、今回は是非前回より改善してもらいたいと思います。

PNGの2022年の行事と祝日のリストです。今年は、新しい祝日があります。それは、2月26日故マイケル・ソマレ初代首相を偲ぶ国民追悼の日です。国民が故ソマレ初代首相に敬意を払い故ソマレ首相の業績を確認することと思います。Cultural showの情報は、今回は掲載していませんが情報が入りましたらご紹介致します。

予定日	行事
2月26日（土）	National Remembrance Day In Memory of Late Grand Chief Sir Michael Somare (故マイケル・ソマレ初代首相の国民追悼の日)
4月15日（金）	Good Friday (イースター休暇開始)
4月16日（土）	Holy Saturday (イースター休暇)
4月17日（日）	Holy Sunday (イースター休暇)
4月18日（月）	Easter Monday (イースター休暇)
6月13日（月）	女王誕生日
6月11日～24日	全国総選挙（国会議員選挙）
6月23日（土）	National Remembrance Day (戦争追悼日)
8月26日（金）	National Day of Repentance (国民お祈りの日)
9月16日（土）	Independence day (独立記念日)
12月25日（日）	Christmas Day (クリスマス)
12月26日（月）	Boxing Day (ボクシング日)
12月27日（火）	クリスマス休暇

パプアニューギニアでの新型コロナ感染拡大とゴロカ病院スタッフ支援への御礼

大野 政義（個人会員）

2019年12月末に中国から始まったとされる新型コロナウイルスの感染拡大は、瞬く間に世界中に広がりを見せ、パプアニューギニアでも2020年3月16日に初めてのケースが見つかり、それ以来、感染者数は漸増し、2022年1月6日現在、累計36,193名が感染、590名の方が亡くなったと報告されています。ちょうど昨年9月中旬頃から感染者と死者が急増しだし、東ハイランド州のゴロカ病院でも、10月中旬には多くの病院スタッフも感染する中で、1日に9人から15人の感染者が亡くなり、死体置き場のコンテナも一杯になってしまう状況になりました。（2021年10月15日地元新聞Post Courier 記事より）

私が初めてパプアニューギニアに行ったのは1984年、青年海外協力隊ボランティアでゴロカの国立スポーツ研修所に派遣され3年間お世話になった地で、病院のスタッフの方々が命をかけて休む間もなく働いている話を聞いて、何か支援できないかと、PNGで働く同じゴロカ隊員OB（原田さん、PNG工科大学ICTマネージャー）と日本パプアニューギニア協会のポートモレスビー支部長を務めるゴロカ隊員OBの伊藤さん達と話し、PNG隊員OBやJICAPNG関係者OBに寄付金を募りました。

また、伊藤さんから本協会会員の皆様への支援アピールの提案をいただき、橋会長をはじめ理事の皆様の暖かいご理解の下、島田事務局長に協会ニュースで、メッセージを流していただきました。

おかげさまで、協会9名/団体の方と11名の協力隊OB関係者から30万円の寄付金が集まり現地に送金、伊藤さんと原田さんの方でゴロカのスーパーマーケットのショッピングK100クーポンを113枚購入（うち3枚は同スーパーマーケット社長からの寄付）、12月20日に無事、州病院関係者代表に寄贈され、ささやかではありますが、クリスマスプレゼントになりました。協会の橋会長、理事、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

パプアニューギニアの感染者拡大は、ワクチン接種率はなかなか改善されない状況にもかかわらず、昨年10月頃のように急増はしていないようですが、予断を許さない状況です。何とかこのまま取まってほしいと願うばかりです。



ゴロカ病院スタッフへのショッピングクーポン



ゴロカ病院代表にクーポン寄贈するゴロカOBの原田氏

I LOVE PNG! 北海道とパプアニューギニアを繋ぎたい

高野 悠己（個人会員）

はじめまして、^{たかのゆうき}高野悠己と申します。北海道旭川市生まれの道産子です。

JICA海外協力隊として2016年～2018年に東ニューブリテン州のココポに派遣され、感染症対策隊員としてマラリアや結核、エイズなどの熱帯感染症の予防啓発を行っていました。その後、在パプアニューギニア日本大使館での勤務を経て、現在はJICAの出向で道内の日本語学校で勤務しております。

業務の傍ら、地元の皆さんにパプアニューギニア（以下、PNG）を紹介する活動をしています。ココポでの生活ぶり・食べ物・文化や習慣・人々・日本とPNGの歴史的関係などを、対面イベントで紹介・雑誌等に投稿しております。昨年末は、PNG（トーライ族）の伝統曲をミニコンサートで歌わせて頂きました。

こうした活動の原点は、私の人生観を変えてくれたPNGの人々との関係性から生まれました。同僚達と毎日のように青空マーケットでアイギール（ココナッツミルクでアイビカと呼ばれる葉野菜や鶏肉を蒸した地元の伝統料理）とココナッツ（ジュース）を買い、ヤシの木の下に座ってランチをしました。同じ釜の飯を食う日々でした。仕事の付き合いだけではなく、休日は教会でのお祈り、誕生会、魚釣り、お祭り、さまざまなイベントに連れて行ってくれました。右も左もわからない外国の暮らしは、現地の人々の助けなくして生活はできません。

日本とPNGの関係がさらに深まるよう、これからも地元でできることをしていきたいです。いつの日か、お世話になった同僚家族を日本に招待したいと願っています。日本の若者にはぜひPNGを訪ねて、未知なる文化と価値観を体感してほしいです。



マラリア予防ソングを地元ミュージシャンと制作



東川町のミニコンサートでPNGソングを披露



小学校低学年への健康授業



配属先（保健局）の同僚たちと食事パーティー

渡邊 信之（駐 PNG 日本大使）

2022 年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひいたします。

昨年 11 月に着任後、10 日も経たないうちにダダイ総督へ信任状を捧呈することができ、外交活動をスムーズに開始することが出来ました。PNG 政府が如何に日本を大切にしてくれているかを早速実感しました。これも日頃から PNG との繋がりを大切に下さっている皆様のお陰です。私自身、両国関係増進に向け、決意を新たにいたしました。

その後、当地の関係各方面への挨拶や日本と関係のある様々な行事に出席しておりますが、先日、東ニューブリテン州のココポで行われた道路建設機材（3 億円相当）の供与式に出席して参りました。式典では、PNG 自身のオーナーシップに基づく発展を支えていきたいとの日本の理念をお伝えし、同席したナリ公共事業大臣を始めとする皆様から日本の皆様に対する深い感謝の言葉を沢山頂き、改めて当地における日本の経済協力が大きな役

割を果たしていることを実感いたしました。

PNG では本年、5 年に 1 度の総選挙が行われる予定です。総選挙に伴う国内各地での混乱を未然に防ぐために、治安部隊が訓練を実施し警戒を高めています。在留邦人の皆様におかれましては、特に 4 月から年央にかけて、普段以上の警戒をお願いいたします。

コロナ禍により、日本と当地との往来は依然として不自由な状態が続いておりますが、一日も早く事態が収束することをお祈りしております。



荻原 聖子（パプアニューギニア大使館 大使秘書）

新年明けましておめでとうございます。

本年も引き続きパプアニューギニア大使館を宜しくお願ひ致します。

さて、H. E. Samuel T. Abal 大使にとって、2022 年元日の皇居への新年祝賀の儀の訪問は初めてになります。一昨年より型を変えながら猛威を奮っている、COVID-19 の影響により、いろいろな場面でイベントへの参加に未だ規制がかかっておりますが、昨年よりはいろいろなイベントで少しは参加が緩和されました。各国大使館の記念日等のレセプションも徐々に開催されつつあります。

今回、皇居への新年祝賀の儀は、残念ながら大使夫妻ではなく、大使閣下のみおひとり様での出席ということで外務省より通達がありましたので、今年は大使閣下のみでの訪問になりました。

皇居への訪問は昨年の 10 月 21 日の信任状奉呈式以来 2 回目になります。来年は大使ご夫妻で揃って訪問されることを望みます。

今年は PALM10（太平洋島サミット）の開催の年であり、年明けからいろいろな会議がスタート致しますが、今のところ事前の会議はオンラインでのミーティングになると思われませんが、無事に PALM10 が開催され各国から閣僚が参加されるサミットが行われるように強く期待致します。



日本・パプアニューギニア協会の皆様、こんにちは。

私どもは Open Bay Timber 社 (以下、OBT 社) と申しまして、住友林業株式会社 (東京都千代田区大手町) の関係会社です。住友林業は海外植林事業として、ニュージーランド、インドネシア、そしてパプアニューギニアで事業を行っており、拠点の東ニューブリテン州のオープンベイでは、約31,260ha、山手線内側の面積 (6,300ha) の約5倍に相当する面積で大規模植林事業を行っています。

1971年に設立、1984年より植林事業を開始し、2007年より住友林業グループの一員となり、日本人駐在員5名と現地スタッフ、合わせて約290名の従業員が働いています。

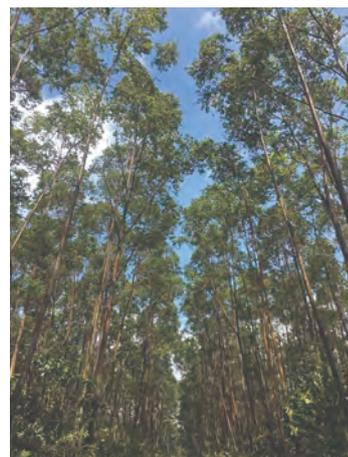
前回2019年5月の「ごくらくちょう」にてご紹介を頂いて以来、近隣の火山噴火、新型コロナウイルス感染症拡大など、毎年のごとく厄災が続いておりますが、幸いにも、当地では大きな被害、影響を受けることなく、持続的な山林経営を続けております。

去る2019年6月27日、ビスマルク海に面するウラウン山 (2,334m) が噴火いたしました。ウラウン山は「ラバウル富士」で有名な火山で、オープンベイからも海上に見ることが出来ます。

幸いにも乾期特有の南風により、噴煙はビスマルク海の洋上に流れ、火山灰などの被害もございませんでした。しかしながら、現地では5,000人超の避難民が発生するなど大きな被害になりました。OBT社としても教会関係者からの呼びかけに即応、救援物資の輸送などにも協力致しました。数ヶ月後、禍々しい噴煙は静まり、今はいつもの美しい「ラバウル富士」の姿に戻り我々を見守ってくれています。

また、新型コロナウイルス感染症拡大はパプアニューギニアでも発生し、国内移動の制限、国際線の運行停止もございました。そのような状況に、各国からの支援によるワクチン接種も始まりましたが、接種を忌避する国民も多く、あまり接種は進んでいません。OBT社は抗原検査キットを早期にクリニックに導入し、正しい情報発信と注意喚起を実施。更に州保健局に協力を得、クリニックにおける訪問接種とワクチン配布を受け、オープンベイ地区は、国内平均を上回る17%の接種率となっております。引き続き、社員のみならず地域住民の健康・安心につながるお手伝いにも注力しております。

私達はこれからも多くの社員と家族、地域住民とともに、環境に配慮した植林事業を通じ、地域社会への貢献を続けて参ります。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



カメレシ植林地の様子



現在のウラウン山
戦時中絵にする兵士が多かったとのこと
「ラバウル富士」と呼ばれました。



事務所敷地を活用開放し、
ワクチンの訪問接種を行っている様子

事務局からのお知らせ

2022年最初のごくらくちょうをお届け致しました。今後の協会のスケジュールは橋会長のご挨拶にもありましたとおり、コロナ禍が落ち着きましたらアベル大使の歓迎会、6月には理事会、総会、そして総会開催時には新旧会長を囲んでの懇親

会を開催予定です。トクトク会も再開する予定です。また可能であれば PNG への訪問も再開できればと考えております。

昨年はコロナ禍の中、協会会員の田中富久子様と堀江正夫様のご寄附で実現しました PNG 国防軍軍楽隊への演奏服供与は関係各方面より多くのご評価を頂きました。コロナが落ち着きましたら、本年

PNGの軍楽隊がその演奏服にて日本で演奏が実施される予定です。その際には協会をあげて応援に参りたいと考えております。

3月下旬になりましたら次年度の年会費のお願いを発送させていただきますので、引き続き協会への御協力をお願い申し上げます。

日本・パプアニューギニア協会 会員募集

本協会は、日本とパプアニューギニアが友好関係を促進し相互理解を深めることを目的とし、文化、芸術、スポーツ、観光等様々な活動を行っております。どうぞ本協会の活動をご理解下さり、ご協力の程をお願い申し上げます。

会員数 ◆ 法人会員：25社 ◆ 個人会員：117名 (2022年1月31日現在)

お問い合わせ先 日本・パプアニューギニア協会 事務局 〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町3-2-12 社会保険労務士会館9階 日本ビジネスライン株式会社内
TEL:03-5216-3555 FAX:03-5216-3556 E-mail:info@jpng.or.jp URL:http://www.jpng.or.jp/

本協会では随時会員を募集しております。お知り合いの方にぜひお声をかけて下さい。

申し込み方法 郵便局の振込取扱票にてお申し込みください。

年会費 個人会員6,000円 家族会員3,000円 法人会員60,000円 学生、PNG人1,000円

会費受付 郵便振替口座をご利用ください。

口座番号 00140-2-277582

加入者名 トクヒ ニホン パプアニューギニアキョウカイ